



トラックの日・東神TSで19人と対話 署名29筆集約・5人が健康チェック



行動開始の挨拶をする大島書記長

神奈川県南支部は10月9日のトラックの日の行動を例年どおり神奈川県大和市にある東神トラックステーションの敷地内で実施しました。

支部からの参加者は大島書記長、金崎書記次長、須田執行委員、赤羽と三昭運輸分会の河野組合員の5人という寂しさでしたが、神奈川県本部の高橋書記長と健康チェック活動で毎回協力を頂いている神奈川県北央医療生活協同組合のなかまに加え、全国トラック部会の鈴木事務局長（中央本部書記次長）の応援参加も得て総勢8人の体制で真夏のような暑い日差しのなかを元気に行動しました。

多くのドライバーは広いトラックステーションの敷地内に駐車をして車内で仮眠中ですが、一方でステーションへの出入りも比較的多く、そうしたドライバーを見つけては対話を仕掛けていきます。

この日は、ほとんどのドライバーが対話に応じてくれて、なかには話が止まらなくなるドライバーもいるなど少人数での行動にもかかわらず短時間で19人のドライバーと対話することができました。

対話から浮かび上がるのは相変わらず過酷なドライバーの現状です。大分県から来ていたドライバーは「月に29日間働くこともある、手取りの収入は20万円以下のときもある」と深刻な実態を話していました。また、車両保有台数7台の京都の企業で自らが運転をする経営者との対話では、運賃引き上げの難しさなどを話すなかで建交労の



行動に際し挨拶する鈴木事務局長

トラック労使が共同ですすめる「安全・安心で魅力あるトラック産業を実現する請願書」に協力をしてくれました。対話したドライバーはほとんど署名に応じて全体で29筆を集約しました。

また、健康チェックの呼びかけには5名のドライバーが参加をしました。行動の成果は多い行動でしたが参加者を大幅に増加させることがなければ、今後の成功は保障できません。

